

ベランダから落ちる

窓を開けたりベランダに出たりする機会が増える暖かい季節には、子どもが建物から転落する事故が増えます。特に4歳までの子どもで多く発生しています。小さい子どもほど、頭が重いので墜落する時に頭が下になり、手で頭を守るなどの防御行動も難しいため、頭のケガが起きやすく、重症になったり入院したりするリスクも高くなります。



応急処置のポイント

直ちに救急車を呼ぶ



- ✔ 反応がない
- ✔ けいれんしている
- ✔ 出血が多い



早めに救急外来を受診



- ✔ 数秒～数分でも反応がない時間があつた
- ✔ 出血するような傷がある

受診を考慮

- ✔ たんこぶがだんだん大きくなってきた
- ✔ 顔色がすぐれず元気がない
- ✔ 嘔吐を繰り返す

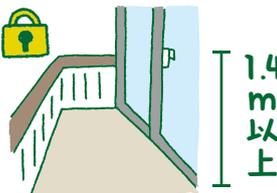
受傷から時間が経っていても受診を考慮しましょう



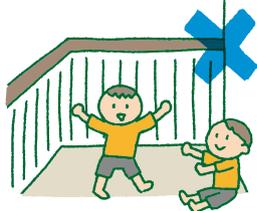
お子さんがいつも通りでも、心配や不安がある場合は受診を考慮して良いでしょう

家庭での事故(傷害)予防のポイント

ベランダへの出入り口を施錠しましょう
(床から1.4m以上の高い位置に補助錠を)



子どもだけでベランダに出したり、ベランダを遊び場にしたりするのは避けましょう



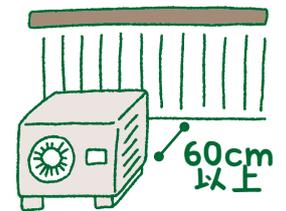
短時間でも子どもだけを家に置いて外出することは避けましょう



窓の近くやベランダに足がかりになりそうなものを置かないようにしましょう



エアコンの室外機は手すりから60cm以上離して設置しましょう



実際にあった事例

高所から墜落した4歳男児 学術報告(臨床小児医学, 2016年)
5階の自宅にいた父が、窓が開いていることに気づき、真下の芝生の地面に4歳息子が倒れているのを発見した。救急搬送され、肺と肝臓に重傷を負い入院治療を要した。

高所から墜落した5歳女児 朝日新聞取材班著「小さいのち」を守る (2018年12月30日発行)

駐車場で車を取りに行こうと外に出た母が大きな物音で駆けつけると、家で留守番をしていた5歳長女が地面に倒れていた。長女は部屋を出て三輪車を踏み台に、7階外廊下の手すりを乗り越えたと思われた。一命は取り留めたが下半身まひの障害が残った。

主治医からのひとこと